

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会ニュース

「核兵器は絶対悪」 2018年4月までに20万筆を！

—「岩手の会」第1回代表者会議、37人決意語り合う—



12月14日（木）プラザおでって3階の大会議室で、「ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会」第1回代表者会議が26の団体から37人の参加で開催されました。

「岩手の会」は昨年12月17日、60団体の賛同を得て結成会を開き、17年3月8日第1回幹事会から幹事4団体と5人の呼びかけ人で運動を県内に広くすすめてきました。

現在、賛同団体は77（内入会は66団体）に広がっています。伊藤宣夫県被団協会長・岩手の会代表が、参加された団体の

日ごろの奮闘に敬意を表す開会あいさつを述べ、「核兵器禁止条約をめぐる情勢と展望」のテーマで下村県被団協事務局長が語り、ICANのノーブル平和賞受賞に触れ、授賞式で初めて被爆者が行ったサーロー節子さんの記念スピーチを新日本婦人の会の渋谷さんが代読しました。活動報告では、いわて生活協同組合の大谷直子さんが目標10万筆を達成するために県内の各コープで目標を決め、150人のコープ委員が先頭になってすすめ9万2千を突破した経験、新日本婦人の会の若山なつ子さんは、18支部135班にニュースを届け2万の目標に現在1万を超えた取り組み、日本民主青年同盟の藤倉了介さんは、署名を訴えながら行うシール投票を、大船渡の高校、盛岡の高校、街頭での経験を語り、SNS、ラインで広げる大事さも強調、いわて教育文化研究所の小西寛さんは、県内ですすめる「高校生1万人署名活動」や毎年ジュネーブに高校生平和大使を派遣する取り組みを紹介、4人の活動報告に、参加者全員が惜しみない拍手を送りました。

次に、参加者全員から「ひとこと発言」で、これまでの運動、署名の様子など発言や決意が語られました。

最後に、まとめと今後の行動提起を県生協連の吉田敏恵専務理事が行い、署名の到達が12月6日時点で14万5709筆（目標の29.14%）、約3割に到達したことを報告し、来年5月再開予定のNPT再検討会議準備委員会（ジュネーブ）までに20万筆やり遂げようと提起。2月18日（日）に日本被団協の和田征子事務局次長を講師に「岩手の会結成1周年、ジャンプアップ集会」（下記参照）を開催することを提起しました。

閉会の挨拶は、金田一文紀平和環境岩手県センター事務局長（岩教組書記長）が行い、岩手の運動をさらに強め日本政府を追い込んで行こうと述べて終了しました。

全体の司会・進行は金野耕治県原水協代表理事（いわて労連議長）が務めました。

お知らせ～多数お出で下さい

※参加無料

ノーベル平和賞授賞関連行事に参加

オスロの報告

日時：1月24日（水）13:30～14:30

会場：県公会堂15号室

講師：県被団協名誉会長齋藤政一さん



岩手の会結成1周年 ジャンプアップ集会

日時：2月18日（日）10:30～12:30

会場：県水産会館5階大ホール

—記念講演—

講師：日本被団協事務局次長

和田征子さん



日本政府に「核兵器禁止条約」の署名と国会での批准を求める市町村議会への請願（一自治体・普代村は陳情）は、九月議会～十二月議会の中で、県内三十三市町村議会のうち二十四議会（72.7%）が採択し意見書を政府と衆・参両院議長に提出しています。

十一日の田野畑村議会では、質疑の中で、特に日本政府の姿勢に問題があるとして、議長経験の議員から「3、日本政府が積極的に核保有国をはじめ世界の各国に核兵器廃絶について働きかけること」の一行を追加すべきと提案され、全会一致で可決採択されています。

不採択、継続審査、未提出の議会には、引き続き取り組みを強め、全議会での意見書可決をめざします。

—日本政府に求める「核兵器禁止条約の署名・批准」の意見書—
県内市町村議会の七割超が可決・提出！